

家庭教育学級

子どもが基本的な生活習慣や豊かな情操、他人への思いやりなどを身に付けるために、家庭教育はとても大切なものです。

生涯学習課では、親として自分自身を見つめ直し、子育てやしつけに役立つ知識や技術の習得、悩みの共有や解消のための交流、仲間づくりの場の創出などを目的に家庭教育学級を開催しています。市内小中学校の1年生の保護者を対象に、生涯学習課の指導員が学校や主事教諭と連携して、運営の指導と支援に携わっています。

親子で学び合う学習会

学習会は学校ごとにある運営委員会が、年間の計画を立てて実施しています。

小学校では親子給食と食育、寄せ植えやバッグペイント、防災・防犯教室などをテーマに開催し、親子で触れ合い、学び合う場になっています。中学校では、進路を考える学習会や座談会なども行っています。



親子でピアダンス

新たな気付きの場 合同学習会

春と秋には、市内小中学校の家庭教育学級が一堂に会する合同学習会として、講演会を開催しています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、春の合同学習会は中止になりましたが、11月には感染症対策を徹底した上で、元NHKアナウンサーの天野ひかりさんを講師として招き、講演会「子どもの自己肯定感を育てる会話のコツ」を開催しました。参加者からは「自分を振り返るきっかけになった」「多くのことに気付くことができた」「悩みが楽になった」などといった前向きな声が多く寄せられました。

コロナ禍により生活様式が一変するなど、家庭教育にも大きな影響が出ていると思います。今後もより一層親子の絆を深め、生き生きと子育てできるような取り組みを行っていきます。



熱弁する講師の天野さん

あさひ輝いた人々 第29回

実業家・政治家として 飯岡漁港を 完成に導く

鎌田 七右衛門 (1900~1962年)



鎌田七右衛門は、飯岡の護岸や飯岡漁港を完成に導いた地域のリーダーです。

七右衛門は明治33(1900)年、代々みそやしょうゆなどの醸造業を営む家に生まれました。小学校の時に父親が亡くなり家督を相続しますが、教育熱心な母親の下、当時はまだ進学する人が少なかった大学へ進み、卒業後は醸造や漁網の製造に専念しました。

昭和2(1927)年には、海外の漁網の状況を視察するため、フィリピンに渡り、スペイン人商社と提携してマニラとマドリッドに漁網・みそ・しょうゆなどの輸出を始めます。

地元では飯岡小の学務委員(昭和12~22年)、飯岡町

商工会長(昭和12~22年)、千葉県網網工業組合常務理事(昭和12~16年)、千葉県漁業用品商業組合理事長(昭和14~16年)などを務め、戦時中の厳しい時代にもかかわらず、地域の発展に全力で臨みました。さらには飯岡町農業会理事、同会会長にも推され、終戦時の食料難への対応に当たり、昭和23(1948)年からは飯岡町農業協同組合理事となり、長年務めました。

政治家としても、昭和17(1942)年に飯岡町議会議員に当選し、昭和22(1947)年には千葉県議会議員に当選、千葉県議会副議長、議長の職を歴任しました。

七右衛門の最大の業績は、初代飯岡町長の横田清蔵と共に、飯岡の護岸と飯岡漁港の修築に取り組み、早期完成に導いたことです。

その人柄は穏やかで上品であり、海外への視察では視察団長としての立派な振る舞いを、外国人が賞賛したと伝えられています。

昭和37(1962)年に亡くなりましたが、その功績をたたえた碑が、七右衛門が尽力した飯岡の海岸に建てられています。



鎌田七右衛門頌徳碑